

平成29年3月第1回定例会 新年度予算はじめ40議案を審議



2月28日から3月16日まで

予算の概要は、2～3ページの記事をご覧ください。

一般会計当初予算 33億4400万円を可決

なお、7項目の審査意見をまとめました。(30ページ)

29年度当初予算は、「予算審査特別委員会」(江田宏子委員長)を2日間の日程で開き、全議員で審査。最終日の本会議において賛成多数(反対1名)で原案のとおり可決しました。

平成29年度当初予算

平成29年3月第1回定例会が、2月28日から3月16日まで17日間の会期で開かれました。
今議会では、平成29年度当初予算(12件)をはじめ、平成28年度補正予算(9件)、条例案(7件)、事件案(6件)、人事案(2件)計36件のほか、陳情4件を審議しました。

議会

No.199



自然劇場

議会に対するご意見
をお聞かせください。

お電話の場合

☎ 82-3111(内線150番)

E-mailの場合

gikai@kijimadaira.jp

平成29年度3月第1回定例会のあらまし

▼開会日(2月28日)

会期の決定後、村長から「行政報告」及び「29年度施政方針」が述べられました。引き続き、議案上程。報告案件の説明の他、条例案件をはじめとする36議案の提案理由の説明・質疑等を経て、陳情4件とともに、所管の委員会へ付託。
また、平成29年度当初予算は、予算審査特別委員会を設置して審議することを決定しました。

▼予算審査特別委員会 (3月6日・7日)

平成29年度当初予算について、各課から説明を受け、質疑、審議等を行いました。

▼一般質問(3月9日・10日)

8人の議員が、村政のさまざま

まな課題について質問しました。
(各議員の質問項目は32ページ)

▼常任委員会(3月13日・14日)

各委員会に付託された補正予算、条例、事件、陳情を審議しました。

▼全員協議会(2月28日・3月16日)

村からの説明、報告及び質疑の他、議員間での報告・協議等を行いました。(主な内容は左ページ)

▼閉会日・採決(3月16日)

各委員長が付託議案等の委員会審査結果の報告を行いました。採決の結果、全て原案のとおり可決、認定、採択(趣旨採択含む)となりました。

発行：木島平村議会
編集：議会だより編集委員会

他、可決した特別会計 当初予算額

情報通信	※1万円未満四捨五入 3億9089万円
学校給食	2176万円
奨学資金貸付事業	792万円
後期高齢者医療	5316万円
国民健康保険	6億7488万円
介護保険	5億8173万円
観光施設	1億3175万円
下水道	3億5482万円
農業集落排水	1951万円
高社簡易水道	1192万円
水道事業会計	1億2149万円

全員協議会

3月定例会の会期中、村と議会及び議員間で様々な案件について協議等を行いました。
主な項目は、次のとおりです。

2月28日(火)

【村長提出案件】

(1) 地方創生拠点整備交付金について(平成29年2月内示済みの交付金事業)

◎移住定住促進体験住宅整備

◎スポーツ合宿拠点(クラブハウス) シャワー付き更衣室兼トレーニングルーム

(クロスカントリー競技場管理棟に隣接)

(2) 過疎地域自立促進計画の変更について

①生活環境の整備

事業計画として、広域消防機能増強事業を追加

②集落の再整備

対策として、地域活性化に向けた支援を追加

(3) 新年度の役場組織の改編について

【議員のみ】

◎議会改革検討委員会の検討報告
・「予算決算常任委員会」の設置についてほか

◎第5回北信州ハーフマラソンの後援について

◎移住体験住宅、有機センターの視察の実施について

3月16日(木)

【村長提出案件】

(1) 提出議案に関する説明

◎特別職の職員等の給与の特例に関する条例の一部改正

◎固定資産評価審査委員会委員の選任

◎教育委員の任命

(2) 上下水道事業経営の今後の課題について

(3) 人権擁護委員の推薦について

【議員のみ】

◎次回の議会臨時会の開会予定

4月28日(金)

◎6月議会定例会の開会予定

6月1日(木)から19日(月)

◎商工会と議会との懇談会の日程について

4月26日(水)

村内視察

3月10日、完成したばかりの移住体験住宅(庚と有機センター)の現状を視察しました。



有機センター



移住体験住宅内部



移住体験住宅

条 例

7 件

■課設置条例の一部改正

産業課に「産業企画室」を付置。
（木島平村産業ネットワーク協議会）を中心とした新たな産業の創出、農産物のブランド化、移住定住対策等をより進展させるため。）

■職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部改正

（平成28年人事院勧告に基づく改正）
育児休業等の対象になる子の範囲の拡大（特別養子縁組の監護期間中の子及び養子縁組里親に委託されている子等を追加）、介護休暇の分割取得、介護時間の新設等。

■職員の育児休業等に関する条例の一部改正

（平成28年人事院勧告に基づく改正）
育児休業の対象となる子の範囲の拡大（同右）、介護時間の制度化に伴う条項の整理等。

■税条例の一部改正

（国の平成28年度税制改正に伴う改正）
住宅ローン減税の期間の延長、軽自動車税のグリーン化特例の1年延長、消費税率を10%に引上げ時点の規定の整備等。

■介護保険条例の一部改正

第6期介護保険料における低所得者の平成27・28年度保険料軽減措置を、平成29年度も継続実施するもの。

■田舎暮らし体験住宅設置条例の制定

庚地区に建設された「木島平村での暮らしたい方のための住宅」の設置及び管理について定めるもの。

■公民館条例の一部改正

公民館の所在地を、旧村民会館から、農村交流館の住所へ変更。

補正予算

9 件

■一般会計（第8号）

※1万円未満四捨五入
補正額 2699万円減額。

（予算総額 34億9696万円）
主な内容として、

歳 出

- ・地方創生拠点整備交付金事業に採択された「スポーツ施設事業・移住定住事業」に関する事業費の増。
- ・除雪車両の燃料費、修繕費等の増。
- ・事業完了等の実績に応じて、各項目で減。

歳 入

- ・課税徴収実績に応じた村税の増。
- ・地方創生拠点整備交付金見込み額の増。
- ・地方交付税の交付決定額の増。
- ・各項目の収入を精算し、繰入金を減額して調整。

■情報通信特別会計（第3号）

- ・保険給付費、共同事業拠出金等、実績見込みを計上し、基金への積み立てを減額。

（補正額の増減なし）

■国民健康保険特別会計（第6号）

- ・歳出は、後期高齢者支援金の減額と介護納付金の増額、7月に確立した前年度療養給付費等負担金の返還金の増額によるもので、残額を基金に積み立てる。

（補正額の増減なし）

■介護保険特別会計（第4号）

補正額 4272万円減額。

（予算総額 5億8038万円）

- ・保険給付費の各項目で減、地域支援事業の人件費の減、基金への積立金の増。

■観光施設特別会計（第3号）

補正額 3246万円減額。

（予算総額 9441万円）

- ・リフト修繕工事等が完了したことによる精算。
- ・減額分は、一般会計繰入金を減。
- ・第8リフトの雷被害による修繕、パノラマランド木島平の下水道電磁流量計設置工事を平成29年度に繰り越す。（繰越明許費として計上）

■下水道特別会計（第3号）

補正額 1169万円減額。

（予算総額 3億7045万円）

- ・固定資産台帳整備業務等の委託契約金額及び消費税予定納税額の確定による減。

- ・歳入では、下水道負担金、一般会計繰入金並びに下水道事業債を減。

- ・固定資産台帳整備業務を平成29年度に繰り越す。（繰越明許費）（農業集落排水事業、高社簡易水道も同様）

■農業集落排水事業特別会計（第2号）

補正額 49万円減額。

（予算総額 2080万円）

- ・固定資産台帳整備業務等委託契約金額の確定による減。

■高社簡易水道特別会計（第2号）

補正額 133万円減額。

（予算総額 1331万円）

- ・固定資産台帳整備業務等委託

契約金額と、消費税予定納税額の確定による減。
・歳入は、一般会計繰入金と簡水基金繰入金を減。

■水道事業会計(第5号)

・水道経営戦略策定業務委託料と建設改良積立金の減、賞与引当金と納付する消費税分の増。

事 件

6件

■辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更

・「辺地債」を活用する事業の計画変更。(平成29年度以降に実施する新たな事業を含む)

・「高社山の登山環境整備事業」と「やまびこの丘公園魅力向上事業」の追加。

・「馬曲温泉改修工事」を将来の源泉掘削も見込んだ事業費に変更。

■観光施設等の指定管理者の指定

指定管理者 木島平観光(株)

指定期間 平成29年4月1日から平成32年3月31日までの3年以内。

・これまでは、施設ごとの指定管理だったが、「観光施設等」として一本化。「高社山麓観光施設

(スキーリフト、ホテルシュエスベルク、テニスコート、やまびこの丘公園、ジュニアサッカー場)、青少年交流施設(パノラマランド木島平)、カヤの平自然体験施設、馬曲温泉公園)

■観光交流センターの指定管理者の指定

指定管理者 木島平観光協会

指定期間 平成29年4月1日から平成32年3月31日までの3年以内。

■内山手すき和紙体験の家の指定管理者の指定

指定管理者 内山和紙振興会

指定期間 平成29年4月1日から平成32年3月31日までの3年以内。

■村道路線の認定

(農道を村道に変更)

・場所は大字上木島字上原地区、認定路線名は、木島平村道226号線、延長は、34・2m。

■飯山市水道事業に関する飯山市との協議

・飯山市瑞穂南部簡易水道事業で、中村区域の一部が給水を受けていたが、平成29年4月1日から同事業が飯山市水道事業に

統合されることとなったため、改めて議決が必要になったもの。(内容は変更なし)

人 事

2件

■固定資産評価委員会委員の選任につき同意を求める

・任期満了に伴う新たな委員の選任。
・選任者の氏名 小林政敏

■教育委員会委員の任命につき同意を求める

・任期満了に伴う新たな委員の任命。
・任命者の氏名 池田 剛

陳 情

4件

- ① オスプレイの低空飛行訓練の中止を求める陳情
- ② 「テロ等準備罪」、いわゆる「共謀罪」を新設する組織犯罪処罰法改正案に反対する陳情
- ③ オスプレイの低空飛行訓練の中止を求める陳情
- ④ 「核兵器禁止条約」の交渉会議に参加し、条約実現に真剣に努力するよう政府に求める意見書」の提出を求める陳情

※③は「趣旨採択」(要望事項に実行中の項目があった為)、そのほかは「採択」

▽次回議会定例会の開催予定

6月定例会

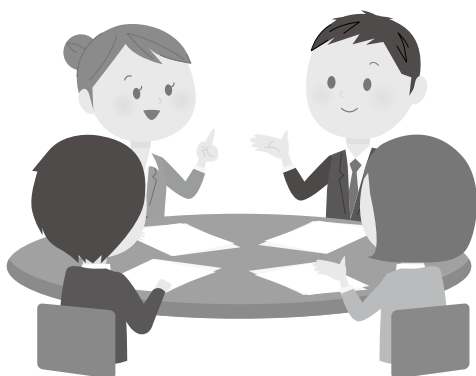
6月1日(木)～19日(月)

▽請願・陳情の受付締切日

5月25日(木)

受付締切日は、議会開会日の1週間前です。

早めに議会事務局へご持参いただき、職員への説明をお願いします。



予算審査特別委員会からの審査意見

- 財政状況が厳しい中、将来にわたる健全財政を維持するためにも、経常的な経費の抑制が必要である。公共施設や公有財産等の維持管理及び改廃計画等、早い段階での検討を進められたい。
- 計画されている事業が、スムーズで効果的に事業展開できるよう、担当課の移管も含め、職務分担の精査をされたい。また、組織改編も予定されているが、事業のボリューム等を十分考慮した適正な人員配置に配慮されたい。
- 庁舎建設は大事業であり、設計・建設に向けては、専門的に取り組める職員体制にも配慮されたい。
- 「産業ネットワーク」は、既存組織との「機能や役割の棲み分け」などを点検し、効果的かつスピーディに目的が達成できるようなあり方を慎重に検討されたい。
- 「スノーリゾート視察」は、海外視察ありきではなく、国内先進地を優先し、財政状況を鑑みた中で、これからの村の実情に合った「冬季観光のアイデア」につなげ、住民理解や費用対効果が得られるような視察を検討されたい。
- 「農の拠点施設の長期修繕計画」が予定されているが、当初から修繕箇所が多く、初期設計に問題がなかったのか検証するとともに、修繕計画以前に、「今後の施設のあり方」等を十分検証した上で、慎重に取り組まれたい。
- 健康管理検診受診や税の申告相談の際、プライバシーの保護に万全を期すよう努められたい。

討 論

(主旨抜粋)

平成 29 年度一般会計当初予算の採決に先立ち、2 人の議員から反対、賛成それぞれの討論が行われました。

【反対討論】樋口 勝豊 議員

国の同和対策特別事業は、2002 年 3 月に終結し、社会問題としての部落問題は基本的に解決された到達点にある。従来の部落の枠組みが崩壊し、部落が部落でなくなっている状況であり、国民の多くが日常生活で部落問題に直面することは、ほとんどない。

自治体に残る同和行政、同和教育の「特別扱い」は終わらせることが求められていることを指摘し、反対討論とする。

【賛成討論】土屋 喜久夫 議員

平成 29 年度当初予算は、緊迫する財政状況の中、基金の取り崩しにより編成され、事業の進捗状況により、補正予算による充当も示唆され、公約の着実な実現を目標に編成された予算である。

喫緊の課題として、比率が増大する経常経費の削減が大きな課題である。従来の施策、組織、村の関与等を再度点検し、真に村民の求める幸福追求のため、取捨選択を進めなければならない。

新役場庁舎は大事業である。村民の共有財産を有効活用し、いかに残せるか。全ての政策は公開し、アイデアを村民に頼ることも必要。声なき村民の意思をとらえ、村の発展を目指すことが肝要であり、公に携わる者は、村民の幸福を追求すべきである。

当初予算が、村民福祉、幸福追求の一助となることを確信し、原案に賛成する。

常任委員会 審査意見

総務産業常任委員会

- 観光施設の新たな整備計画（高社山関連・カヤの平ロッジ・サッカー場クラブハウスなど）は、誘客につながる効果が期待される反面、将来にわたる維持管理費の増加が懸念される。費用対効果を常に考え、誘客や収益につながる企画等、ソフト面の仕組み作りも併せて進められたい。
- 新たに整備される「高社山登山道」の管理は村の責務であり、雪崩・落石・蜂対策等、一年を通じて、登山者の安全対策に十分配慮されたい。
- 「田舎暮らし体験住宅」は2軒目の建設も予定されているが、1軒目の利用状況や、需要、将来的な活用等も考慮し、慎重に進められたい。
- 「指定管理者」の新たな指定や更新にあたり、村が管理者を選定する場合、事業が効果的に進められるよう、関係者との協議・調整など、手順を踏み、理解を得ながら選定されたい。

民生文教常任委員会

- 郷の家は、廃止・売却・解体等、維持管理費が掛からないように早急に対応されたい。



「12月議会の審査意見」に対する村の対応（主旨抜粋）

平成28年12月第4回議会定例会で各委員会から出された「審査意見」に対する村の対応の報告です。（2月28日本会議「諸般の報告」より）

【総務産業常任委員会関係】

- 情報通信設備更新のプロポーザルにあたっては、将来を見据えた検討をされたい。

対応

情報通信設備の更新にあたっては、当初工事費と併せて保守費や保守機材費等の経費面と、汎用的な機器であること等を重視して請負業者の選定を行います。
また、将来的には近隣自治体との統合についてその可能性も含めて検討します。

- 実施計画にあるペレット工場整備補助について、補助金ありきの事業展開ではなく、需要や村内経済への効果等を見極め、慎重に対応されたい。

対応

今年度、地方創生加速化交付金事業で、廃オガペレットの実証事業を実施しており、ペレットの試作とストーブ・ボイラーの燃料実験を行っています。
相対的な費用対効果を充分検証し、実現可能なものかどうか慎重に判断してまいります。

【民生文教常任委員会関係】

- 各課の事業量や勤務実態を精査し、適正な人員配置をされたい。

対応

現在も事業量等を考慮した人員配置を行っていますが、引続き今後も同様に対応してまいります。

地域おこし協力隊と議会との懇談会

(2月20日)

議会改革の一環として始めた「各種団体等との懇談会」、第2回目は、地域おこし協力隊員と行いました。

全協力隊員(10人)のほか、元協力隊員(4人)にもご参加いただき、活発な意見交換ができました。

ある隊員からは、「まだ全国的には認知度の低い木島平米の最も効果的な宣伝方法は、まず食べてもらうこと。そこからSNSや口コミで広がる。『マーケットイン』(消費者ニーズを重視)の発想で考えることが必要。」と、資料を用意しての熱い提案が語られました。

また、一方、他の隊員からは、行政と隊員間の「ズレ」から生じる悩み(着任前に聞いていた業務内容と実態が違う、「提案が認められない」、「具体的な仕事の説明も状況把握もされない」など)の声も聞かれました。



協力隊員からの意見、提案は斬新で、できることなら、任期を終えても村に残り、ご活躍いただきたいと感じました。

任期終了まで残りわずかな協力隊からの「もっと早くこのような機会を作ってほしかった」という言葉が強く印象に残りました。

各議員の一般質問の項目

3月9日・10日に、次の8人の議員が一般質問を行いました。

【第1日目(3月9日)】

●江田 宏子 議員

- ①子育て支援と福祉政策について
- ②有機センターについて
- ③指定管理者制度について
- ④新年度に向けた「組織改編」と「活力ある職員の育成」について

●土屋 喜久夫 議員

- ①コンパクトシティについて
- ②地域交通体系について
- ③村民のために常に想像力を働かせる職員体制は整っているか

●樋口 勝豊 議員

- ①オスプレイの共同訓練はやめさせるよう県と国に意見を上げることを求める
- ②子育て支援施策を充実するよう求める
- ③国民健康保険の給付の改善の検討を求める

●滝沢 光平 議員

- ①庁舎建設について
- ②高社山登山道について
- ③指定管理者制度について

【第2日目(3月10日)】

●吉川 昭 議員

- ①高齢者の運転免許証自主返納者への支援と北信総合病院の通院について
- ②産業ネットワーク協議会について

●萩原 由一 議員

- ①村長公約の進捗状況及び課題として感じていることは
- ②村職員の健康及びメンタル面の管理は

●勝山 卓 議員

- ①持続可能な財政運営について
- ②情報通信設備更新計画について
- ③就農と移住定住推進について

●勝山 正 議員

- ①地域おこし協力隊について

※質問・答弁の主旨は、議会だより5月号に掲載いたします。

◆トピックス・議会改革◆ 予算決算常任委員会の設置

この5月1日から、「予算決算常任委員会」を設置します。

これに伴い、今まで特別委員会の設置で審議してきた「当初予算及び決算審査」、各常任委員会では審議していた補正予算は、この委員会で審議することになります。

《設置に至った理由は?》

今まで、補正予算は各常任委員会に分かれて審査していましたが、議員数も少なく、「全議員が詳細説明を聞き、より多くの議員の目で審査・議論することが望ましい」という観点から、どのような方法が望ましいか、先進議会の事例も参考にして検討を進め、設置に至りました。

《今までの常任委員会は?》

今までの常任委員会（総務産業・民生文教）もそのまま残り、請願・陳情の審査の他、それぞれの担当部署に係る課題の研究等を行い、政策提言を目指します。

議員個別研修報告(概要)

人材養成塾オープンセミナー

「もてなさない定住促進 生活目線で考える人が人を呼ぶくらしの施策」(2月13日 東京)

【参加議員】吉川 昭、勝山 卓、滝沢 光平

山口県の周防大島町定住促進協議会 ふるさとライフプロデューサーの泉谷勝敏(いずたにかつとし)氏を講師に、周防大島町の定住への取り組み内容を学んだ。

周防大島町では、官協議会、民(地元の人、移住者)の3者で協議し、1年目に方向性、方針、何をすべきかを議論し、2年目以降、地元と移住者のために企画・広報戦略を立て、定住促進を考えていく。

「移住者は必要か」から議論し、「人が減ったかどうか」を考え、その危機感を住民が共有することから戦略を立てる。

定住促進は誰のためなのか、どのような

人に定住してもらいたいのかを考え、なるべくお金をかけずにPRする。民間にできることと、行政ができることをしっかり役割分担し、移住希望者へのサポートとして、移住者の希望に合わせた提案をしている。

移住定住のための取り組みをいろいろと行ってきたが、定住を決定づけるのは、人との出会い、つながりによる部分が大きい。他の地域を参考にする場合、取り組み方よりも「考え方」を参考にすべき。



都市・農村共生社会創造シンポジウム

「移住女子が拓く都市・農村共生社会」

(2月25日 東京)

【参加議員】吉川 昭、勝山 卓、江田 宏子

【基調報告】

ローカル・ジャーナリストの田中輝美さんから、女性が地方に向かう最大の魅力は、「課題」があり、チャレンジができるから」とのこと。時代の変化で、地方は、「最先端」、「チャンスと可能性に溢れた場所」へと、若い世代の考えが変わってきている。「移住女子」は時代の最先端であり、変化は女子から起きている。

【実例報告】

3人の女性が実例報告をされた。

そのうちの1人、長野県飯島町の地域おこし協力隊 末崎(旧姓:木村)彩香さんは、出会い創出事業(結婚による移住定住)担当として赴任。

1年目は、地域に馴染み、自分を覚えてもらうた

めにいろいろなところへ顔を出し、2年目からは、温めてきた想いを地域の方々と共有、やりたいことに地域の方々が協力してくれるようになり、婚活イベントは3年間で38回(総参加数633人)、カップル成立が49組、うち成婚8組と実績を上げた。

協力隊の任期終了後は、田舎暮らしシェアハウスの運営などで、移住したい女子の受け入れ体制の強化や、移住者のパワーを活かした女性コミュニティの強化などを考えているとのこと。

3人の実例報告から、地域の人のつながりや信頼関係を深めることで、柔軟な発想力が活かされ、地域が活性化されているのだと感じた。